

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月1日

上場会社名 株式会社プロルート丸光 上場取引所 東
 コード番号 8256 URL <http://www.proroute.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)安田 康一
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理本部長 (氏名)森本 裕文 (TEL)06(6262)0303
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月2日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年3月21日～平成29年12月20日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	8,213	△8.5	179	230.3	151	—	153	—
29年3月期第3四半期	8,975	△4.9	54	—	△44	—	△51	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 161百万円(—%) 29年3月期第3四半期 △22百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	7.50	—
29年3月期第3四半期	△2.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	5,393	2,149	39.9
29年3月期	5,490	1,988	36.2

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 2,149百万円 29年3月期 1,988百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 平成30年3月期の期末配当につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年3月21日～平成30年3月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,324	△6.5	66	—	52	—	46	△82.4	2.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)― 、除外 一社(社名)―

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	20,473,440株	29年3月期	20,473,440株
② 期末自己株式数	450株	29年3月期	350株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	20,473,065株	29年3月期3Q	20,473,090株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. その他	11
(継続企業の前提に関する重要事象等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果により、緩やかな景気回復の動きが見られる一方、米国の不安定な政策運営やアジアの地政学リスク等の懸念から、経済全般に不透明な状況が続いております。

当社グループの属する衣服・身の回り品業界におきましては、実質所得の伸び悩みや将来に対する不安から消費者の生活防衛意識は依然として根強く、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中で、当社グループは、主力の卸売事業を中心に、利益体質への変革を図るため事業構造改革を推し進めてまいりました。

卸売事業におきましては、顧客ニーズにマッチした魅力ある売場を構築するため、重複感のある売場の統合や収益性の低い売場を廃止したこと及び今夏の天候不順の影響により、売上高は前年同期を下回りましたが、一方で、売上総利益率は向上いたしました。また、クロスファンクショナル機能を有する新規営業部隊を立ち上げ、関連部門での情報共有による効率化や顧客ニーズの取りこぼしを防ぐとともに、新規開拓や休眠顧客の掘り起こしに注力し営業活動を強化してまいりました。さらに、天理流通センターでの出荷等に係る業務を内製化し、物流コストの削減及びサービス面での付加価値の向上を図ってまいりました。これらの諸施策に加え、引き続きマーチャンダイジングの最適化に取り組んだ結果、営業損益は大きく改善いたしました。

EC事業におきましては、アイテム数の拡充や各種キャンペーンにより自社サイトの新規会員獲得に取り組むとともに、アパレル専門の卸・仕入サイトに新規出展し、売上拡大を図ってまいりました。

貿易事業におきましては、新たに中国企業2社と業務提携に向けた基本合意書を締結いたしました。これを契機に、当社が取り扱う日本製商品を中国国内の保税センターへ供給できる体制を構築し、貿易事業のより一層の拡大を図ってまいります。

免税事業におきましては、当社丸屋免税店の取扱商品が訪日旅行者のニーズに合致しているということ及びレストラフフロアにおいて食事提供を行えるということから、新規を含めた各提携旅行会社から支持を得ており、引き続き団体バスでの来店を中心に客数、売上高ともに大幅に増加いたしました。現在、インバウンド市場は、団体旅行から個人旅行へ、モノからコトへのシフトが加速しており、免税事業のさらなる拡大のため、今後はこれらの変化に対応した新たなサービスの提供を検討してまいります。

連結子会社であります株式会社サンマールが営む小売事業におきましては、通行量の多い立地を活かし、一部店舗をアウトレット業態へ転換することにより、来店客数の増加及び売上拡大を図ってまいりました。また、取引先でのオーダースーツ受注会や百貨店催事等の店舗外売上の獲得も積極的に行うとともに、徹底したコストの見直しにより、損益改善に取り組んでまいりました。

また、当社グループ全体におきましては、ITコストや運営管理費の見直し、有利子負債の圧縮による金融コストの低減を図ったことなどから、経常損益において大幅な改善を実現しました。

以上の結果、当社グループ全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は、82億13百万円（前年同四半期比8.5%減）、営業利益は1億79百万円（前年同四半期比230.3%増）、経常利益は1億51百万円（前年同四半期は経常損失44百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億53百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失51百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(卸売事業)

当第3四半期連結累計期間の卸売事業における売上高は78億21百万円（前年同四半期比10.5%減）、営業利益は4億4百万円（同26.9%増）となりました。

(小売事業)

東京都内で小売業を営む株式会社サンマールの当第3四半期連結累計期間における売上高は93百万円（同3.6%減）、営業損失は3百万円（前年同四半期は営業損失10百万円）となりました。

(免税事業)

丸屋免税店による訪日旅行者向けの小売り販売を行う免税事業の売上高は2億98百万円（同115.9%増）であり、営業損失は1百万円（前年同四半期は営業損失35百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は53億93百万円となり、前連結会計年度末に比べて96百万円減少いたしました。これは主として受取手形及び売掛金が2億53百万円、流動資産（その他）が45百万円それぞれ増加する一方で、現金及び預金が4億20百万円減少したことによるものであります。

負債合計は32億44百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億58百万円減少いたしました。これは主として買掛金が35百万円増加する一方で、事業構造改善引当金が1億49百万円、流動負債（その他）が76百万円、社債（1年内償還予定の社債を含む）が64百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は21億49百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億61百万円増加いたしました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益1億53百万円の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の業績予想につきましては、平成29年5月2日に発表いたしました数値に変更はありません。なお、開示が必要となりました場合は、速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,975,341	2,554,458
受取手形及び売掛金	854,186	1,107,973
商品	552,281	581,176
その他	30,726	76,573
流動資産合計	4,412,536	4,320,181
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	463,362	439,314
機械装置及び運搬具(純額)	1,656	1,403
工具、器具及び備品(純額)	34,399	25,840
土地	412,558	412,558
リース資産(純額)	466	116
建設仮勘定	-	138
有形固定資産合計	912,442	879,371
無形固定資産		
投資その他の資産	41,953	61,282
投資有価証券	85,511	89,299
差入保証金	30,005	35,899
その他	8,329	7,917
投資その他の資産合計	123,846	133,116
固定資産合計	1,078,242	1,073,770
資産合計	5,490,778	5,393,951

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	367,654	403,405
短期借入金	1,422,410	1,443,610
1年内返済予定の長期借入金	97,900	282,102
1年内償還予定の社債	64,000	-
事業構造改善引当金	149,184	-
未払法人税等	6,266	4,699
未払費用	163,518	170,483
その他	171,558	99,847
流動負債合計	2,442,492	2,404,148
固定負債		
長期借入金	184,202	-
役員退職慰労引当金	35,001	36,741
退職給付に係る負債	753,832	718,902
資産除去債務	8,446	8,502
その他	78,659	75,912
固定負債合計	1,060,142	840,058
負債合計	3,502,634	3,244,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,635,854	1,635,854
利益剰余金	257,917	411,541
自己株式	△76	△102
株主資本合計	1,993,695	2,147,293
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,387	28,146
繰延ヘッジ損益	575	393
退職給付に係る調整累計額	△32,515	△26,088
その他の包括利益累計額合計	△5,551	2,451
純資産合計	1,988,143	2,149,744
負債純資産合計	5,490,778	5,393,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月21日 至平成28年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年12月20日)
売上高	8,975,309	8,213,907
売上原価	6,968,483	6,309,341
売上総利益	2,006,825	1,904,566
販売費及び一般管理費	1,952,384	1,724,729
営業利益	54,440	179,836
営業外収益		
受取利息	69	122
受取配当金	1,689	1,722
受取賃貸料	4,669	7,198
その他	5,125	5,806
営業外収益合計	11,553	14,849
営業外費用		
支払利息	109,094	16,133
賃貸費用	-	16,567
資金調達費用	-	9,900
その他	940	974
営業外費用合計	110,034	43,574
経常利益又は経常損失(△)	△44,040	151,112
特別利益		
事業構造改善引当金戻入額	-	6,165
特別利益合計	-	6,165
特別損失		
システム解約損失	2,650	-
特別損失合計	2,650	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△46,690	157,278
法人税、住民税及び事業税	4,699	4,699
法人税等調整額	△21	△1,045
法人税等合計	4,678	3,654
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△51,368	153,623
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△51,368	153,623

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月21日 至平成28年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年12月20日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△51,368	153,623
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,039	1,758
繰延ヘッジ損益	12,172	△182
退職給付に係る調整額	7,269	6,426
その他の包括利益合計	28,480	8,003
四半期包括利益	△22,888	161,626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△22,888	161,626
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月21日 至平成28年12月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	卸売事業	小売事業	免税事業			
売上高						
外部顧客への売上高	8,740,065	96,885	138,358	8,975,309	—	8,975,309
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,096	8,027	10,963	21,086	△21,086	—
計	8,742,161	104,912	149,321	8,996,395	△21,086	8,975,309
セグメント利益 又は損失(△)	318,902	△10,681	△35,599	272,620	△218,179	54,440

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△218,179千円は、セグメント間取引消去△3,082千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△215,097千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月21日 至平成29年12月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	卸売事業	小売事業	免税事業			
売上高						
外部顧客への売上高	7,821,746	93,424	298,736	8,213,907	—	8,213,907
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,424	—	1,125	10,550	△10,550	—
計	7,831,171	93,424	299,861	8,224,457	△10,550	8,213,907
セグメント利益 又は損失(△)	404,590	△3,477	△1,049	400,063	△220,226	179,836

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△220,226千円は、セグメント間取引消去8千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△220,235千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、卸売事業を中心に改革を進めた結果、平成29年3月期において営業活動によるキャッシュ・フローはプラスに転じましたが、4期継続して営業損失を計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在していると認識しております。

このような状況下、当社グループは、低成長下においても利益を創出できる強固な経営基盤を構築し、将来に向けた持続的成長を目指すため、下記のとおり事業構造改革に取り組んでおります。

① 財務体質の改善

平成29年3月16日付で実施した本店及び第2駐車場の固定資産の譲渡資金を原資として有利子負債の圧縮及び金融コストの低減を図るとともに、十分な運転資金を確保し、財務体質の改善を進めております。

② 顧客ニーズにマッチした売場の構築

重複感のある売場の統合や収益性の低い売場を廃止するとともに、需要開拓が見込めるカテゴリーは拡大し、フロアごとの特色を明確化します。これにより、顧客ニーズにマッチした魅力ある売場を構築し、人員効率の最適化も図っております。

③ 物流機能内製化によるコスト削減

外部業務委託を行っていた天理流通センターでの出荷等に係る業務を内製化するとともに、天理流通センターへの物流拠点の集約を進めており、物流コストの削減及びサービス面での付加価値の向上を図っております。

④ 組織再編による営業力強化

卸売営業改革として、クロスファンクショナル機能を有する新規営業部隊を新設し、関連部門での情報共有による効率化や顧客ニーズの取りこぼし防止による営業力強化を図っております。

⑤ その他

上記の事業構造改革に加え、引き続き粗利益率の改善やコスト適正化を図るとともに、既存事業の経営資源を活用しEC事業及び貿易事業を早期に軌道に乗せ、売上拡大を目指してまいります。また、売上高や来客数が増加傾向にある免税事業におきましては、訪日旅行客のニーズに応えた商品を提供するため、仕入先開拓・商品開発を推進し、収益事業としての確立を図ってまいります。

上記を中心とした諸施策を押し進めた結果、収益力が改善しており、当第3四半期連結累計期間におきましては、各段階利益において黒字転換を果たしました。また、資金面に関しましては、取引金融機関に対して継続的な支援が得られるよう良好な関係を築き、今後とも資金調達や資金繰りの安定化に努めるとともに、当四半期連結会計期間末日においては十分な手許資金を確保しております。以上のことを勘案し、継続企業の前提に関する不確実性は認められないものと判断しております。